

「輝く沖縄市の企業家たち！」

なかお たかひろ
株式会社リボルブ沖縄 代表 中尾 敬大 さん

令和2年9月4日（金）インタビュー
場所：リボルブ沖縄（BC コザ2階）

木下) 本日は、お忙しい中、お時間を頂戴しましてありがとうございます。

それでは、さっそくインタビューを始めさせていただきます。

はじめに、ご出身は北海道なのですか？

中尾) 生まれた病院は北海道なので、出身は北海道ということになりますが、育ちはほぼほぼ東京の池袋です。

木下) 北海道生まれの東京育ちということですね。

中尾) ええ、両親が北海道出身なので里帰り出産のような感じで、北海道で生まれました。その後、まもなく東京に戻って育ちました。

木下) いつ頃会社を立ち上げたのですか。

中尾) 2012年4月に株式会社リボルブ・シスを東京に設立しました。

木下) 独立して会社を立ち上げたきっかけや、想いなどについて伺えますか。

中尾) システムエンジニアという職種は歳を重ねると生産性が下がるとも言われていますが、当社が事業を行っております金融機関向けのシステム開発は長年培った経験や知識・技術力を活かせる分野でもあることから、社員が金融系システムエンジニアとして成長でき、安心して長く働ける会社を作りたかったんですよ。

木下) なるほど、その想いが企業理念にある「人を大切にする」によく表れていますね。

当初3名で始められて、いまでは230名になっていることから、社員が安心して働ける定着率のいい会社なのだろうと思います。ところで、沖縄にも会社を作ろうとお考えになったきっかけは何だったのですか。

中尾) 2014年から沖縄のある開発センターにシステム開発を発注したのをきっかけに、沖縄に毎月来るようになりました。沖縄の優秀な人材と触れ合う中で、人材育成やノウハウの蓄積、引いては沖縄でのシステムエンジニアの地位向上といったことに取り組んでいきたいという想いが強くなりました。そのことを沖縄の知人に相談したところ、様々な助言をいただくとともに沖縄市の企業誘致課の方々を紹介してもらいました。さらに、職員の方々に親身になって相談に乗っていただき、2018年9月に株式会社リボルブ沖縄を設立し、BCコザに入居する縁に繋がりました。

株式会社リボルブ・シスは早くから分散拠点でのシステム開発に取り組んできました。地方だからといってコスト削減を目的とするのではなく、地方からでも品質の高い技術や成果を提供できるということを証明してきたのです。

この株式会社リボルブ沖縄も、品質の高い技術や成果を強みにしていきたいと考えています。

木下) 沖縄の IT 業界にとって大変ありがたいお考えだと思います。

こんな志の高い会社が沖縄市にあるということ、IT 技術者を目指す沖縄の若い人たちに広く知らしめたいですね。

ところで、今春 4 人の新入社員を迎えたとお聞きしました。どんな状況ですか。

中尾) リボルブ沖縄の新入社員は、つい先日まで東京で研修を受けていました。

大規模開発というのは、やり方が分からないとうまく進まない、実際のプロジェクトに参画してもらいながら、OJT (On the Job Training) で技術やノウハウを勉強してもらっている状況です。

今年、4 人が入社してくれたのですが、そのうちの一人は元々沖縄市の出身で東京の大学に進学はしましたが、最終的には沖縄に戻りたいということで、リボルブ沖縄に入社してくれました。沖縄の優秀な人材を沖縄に連れて来られて良かったと思っています。

木下) 新入社員の 4 名は全員沖縄に戻ってきているのですか？

中尾) そうですね。9 月には全員、東京から沖縄に戻ってきています。

今、共済や銀行の案件をやっていて、その中に新入社員も参画しています。

中途入社社員も二人参画しています。今年は新卒 4 人、中途 2 人で、合計 6 人が入社してくれました。

木下) BC コザに入居して 2 年が経ちますが、すごい勢いで成長していますね。

中尾) 目標を達成するためには、今のスペースでは足りない、もっと拡張していこうと思います。

木下) 先ほどの目標もそうですが、株式会社リボルブ・シスが、この 7, 8 年で大きな目標を達成されているというのは、やっぱり御社がお客様から信頼されているからなのかなと思います。事業方針や人材育成方針を社員に浸透させるために、どのようなことに注力されてきたかお聞かせください。

中尾) 当社はプログラミングを行う会社というよりもシステム開発の上流工程を行う会社なんです。プログラミング自体はいずれ自動化できると思うので、社員は IT にとって代わられない役割を担えるエンジニアに成長してほしいと考えています。

具体的には技術や業務のスペシャリストかプロジェクトを運営するマネジメントを目指すよう勧めています。

社員の成長と同時に会社も規模を大きくして成長していきたいと考えています。

会社としては 3 か月に一度全体会議を開催し、全社員に会社の状況や目標の達成度

合いなどを説明し共有しています。

今年の全体会議はWeb会議で実施している部分もありますが、せめて12月の全体会議は、ホテルのホールを借りて全員集まってもらってクリスマスパーティーを兼ねて開催したいと考えているのですが、なかなか難しい状況ですね。

木下) そうですね、新型コロナの状況がどうなるのかなという点もありますからね。

中尾) 去年リボルブ沖縄では9月にビーチパーティーを行ったのですが、今年は難しい状況ですね。本当は今年もやりたいと考えているのです。

豪華な牛肉や魚介類をいっぱい買い込んで、社員や協力会社スタッフの家族も呼んで、ビーチでBBQを楽しみたいですね。

大嶺) 仕事も息抜きも「まじめに、楽しく」ですね。仕事上で何か新しいことに取り組んでいることはありますか。

中尾) やっぱり、技術が目まぐるしく変わっていく中で、新しいこともやりながら様々な技術を追随していかないといけないので、会社設立当初はホスト系の開発で例えばCOBOL言語などで開発をやっている人達が多かったのですが、今はDX推進という部門を創って、最新技術を用いた開発をかなりの投資をしながら行っています。

— ここで大画面モニターにパソコンをつないで事業活動等を詳細に説明頂いた —

大嶺) なるほど、こういう機器やコミュニケーションツールなどを活用して、社員と情報を共有されているんですね。

中尾) そうですね。若者はみんな実際に目で見るとやりたがるので、どんどん書き込んで活発に利用しています。

大嶺) 遠隔地でもデータや画像を共有しながらコミュニケーションされているんですね。

中尾) そうです。今は、テストなどもかなり自動化できるようになってきたので、テストは大阪で行い、高度なシステム開発は沖縄で行うといった形にしたいと考えています。

大嶺) テストの自動化というのは今まで難しかったと思うのですが。

中尾) だいぶ進化してきましたよ。お客様の評価もかなり良くなってきました。

今は検証も自動でやろうと取り組んでいまして、画像認識技術と組み合わせてやり始めています。

大嶺) なるほど、システム開発で最も時間がかかるのはテスト・検証の工程ですから、そこが自動化できればもっと丁寧な品質の作りこみができそうですね。

中尾) そうです。当社の品質作りへのこだわりを評価いただいて、今これだけお客様が増えているのです。

大嶺) そうそうたる企業が顧客になっているんですね。この図を見るとリボルブ・シスが着実に成長し続けてきた背景が良くわかります。

中尾) ゴールデンウィークに、『リボルブ』って、なに?』というパンフレットも作りまし

た。沖縄では、本人だけでなく御両親や親せきの人達にも会社のことを知ってもらった方が安心して入社を決めていただけるのでは、というアドバイスがあったので、できるだけ難しい言葉を使わずに一般の人にもわかりやすい会社紹介資料にしました。

木下) これはいいですね。これを参考にしながら我々も紹介記事を書きたいと思います。中尾社長がおっしゃるように、求職者だけでなく地域の人たちにも広く会社を知ってもらうのは大事ですね。沖縄市でもそのお手伝いとして、広報誌で注目企業を紹介する取り組みを行っています。

今回の取材記事は市の「広報おきなわ」10月号に掲載される予定です。

ちなみに、リボルブ沖縄ではこういった人材を求めているのですか。

中尾) コミュニケーション能力の高い人ですね。まあ、一人で悩んだり落ち込んだりしてもらっては困るので、困っているときに「困っている」と言える人がいいですね。うちは皆でものを作っていく会社なので、サッカーが一人ではできないのと一緒に、皆で協力して作業を進めていくためにもコミュニケーション能力のある人が一番です。今年、沖縄で採用したメンバーはその点まったく問題なかったですね。

みんな東京でそれぞれ部屋を借りて研修に参加しましたが、4人全員がネットを繋ぎっ放しで、それこそ食事の時も部屋飲みの時もテレビ会議ツールでお互いを映しながらコミュニケーションしていたようです。

来年の新卒採用向けに学生向けの会社紹介をやってもらった時も、みんな先輩社員としてとても上手に説明できていたので、今年の4名は本当に優秀な人材だなと思っています。この4名の新入社員と2名の中途社員に力を借りながらいい文化を創っていきたいなと思っています。非常に楽しみです。

木下) いいですね。チームでもの作りをするのもそうですし、人数が増えればマネジメントが大事になってくるとは思いますが、その点でもコミュニケーションは重要ですね。

中尾) あと、みんな沖縄市に住んでいて通勤距離が近い人ばかりなので、那覇に行かないでここでうまく活躍してくれるといいなと思ったりします(笑)

沖縄のビジネスパートナーも皆さん非常に優秀ですよ。技術力だけでなく、例えばオフィスの空調や換気の件など遠慮なく意見を言ってくれるのですが、それが働きやすいオフィス改善につながっていくので一緒に取り組んでもらっています。

木下) 先日は、首里城復興支援金として300万円を沖縄市経由でご寄付いただきました。本当にありがとうございました。たいへん大きな金額でびっくりしましたが、東京出身の中尾社長がどんな思いでご寄付下さったのでしょうか。

中尾) いやいや、カープさんの額には負けましたけどね(笑)。

まず、首里城は沖縄のシンボルだと思っていたこと。それと、初めて見た時にとても立派な建物だなと感動したことや、東京から視察に来られたお客様を案内すると、必ず感動して喜んでいただけた事などもあって、1日も早く復旧して頂きたいなと

思いました。そのためにできる限りのことをしようと。

木下) 沖縄県民としてあらためて感謝申し上げます。ありがとうございます。それでは、次の話に移りたいと思います。

沖縄市に進出するにあたって、今後の参考までに伺いたいのですが、市の対応でこういう風にするともっと良かったとか、今後の期待とかあれば教えて下さい。

中尾) うーん。言いにくいことばかりですよ。

木下) はい、そういうことをお聞きしたいのですが…。

中尾) IT企業が少ないからですかね、優遇措置が沖縄市にはまるっきりないなと感じました。うるま市とか那覇市にはいっぱいあるのに、沖縄市はほとんどないなと。ただ、「逆に競合が少ないので、優秀な人材を集められるんじゃないか」とか、皆さんにいろいろアドバイスを頂いて、ここだったらビジネスができるなという思いもあって、

え〜、優遇措置のない、あえて、ここ沖縄市に決めました。

環境面を考えると、うるま市は県のIT津梁パークがあるので、よく考えられているなと思います。例えば、開発プロジェクトが大きくなった時に部屋が拡張できるようになっていたり、十分な広さの駐車場が用意されていたりします。こちらではその都度沖縄市役所企業誘致課に無理難題をお願いしてなんとかして頂いているんですけど。事前にそういうことも計画的に準備して頂けると、今後ほかのIT企業等が進出してきたり、規模が大きくなったりしたときに、部屋の拡張性や駐車場など必要になるものを、もう少し計画していただいて、頭の片隅にでも入れて頂けると、同業者も増えて沖縄市のIT業界も裾野が広がり、協業できるチャンスも増えるのではないかと考えたりしています。環境を整えば沖縄市はIT企業を集積して広げやすいのではないかと思います。那覇はもうだいぶ人手が足りないような感じになっているし、通勤されている人たちの車を駐車するところも無いような状況なので、そこに行かないで沖縄市で頑張って盛り上げていこうといった感じにできたらいいなと思っています。そういう状況を広げていくための環境を作っていけるといいですね。個人的には競合が増えるのは困るんですけど、地域全体としては広がっていく方がいいですし、それに向けた計画を立てて頂けるとありがたいなと思います。

木下) 貴重なご意見を賜りましてありがとうございます。

この部屋もそうですけど、元々は一般的な事務所として使っていた部屋なので、あまり拡張性を考慮した造りにはなっていませんでした。

中尾) 本当にお金が掛かるんですよ。IT企業として働きやすいオフィスにするためには床から何から全部手を入れないといけないので。

他の会社が進出を検討する時にたぶん二の足を踏むんじゃないかと思うんです。ある程度資金がある会社でないとGOサインは出せないのではないのでしょうか。ハコだけでも市の方で準備して頂けるとありがたいなと思います。

企業誘致課の皆さまには、また無茶を言うことがあるかもしれません。

木下) そうですね。予算や手続きの問題で民間企業のスピードになかなか追いつけていない面もありますが、ご協力できることは全力でバックアップさせていただきますので、今後ともよろしくお願い致します。

駐車場も屋上が手狭になってきたので、BCコザの近くの敷地を使えるように検討しています。草を刈って砂利を入れて整備していく予定です。

中尾) いろんな計画を入れて頂けるとありがたいなと思います。

木下) はい、今後もいろんなご意見を頂戴しながら対応していきますので、よろしくお願い致します。

本日は、お忙しい中にもかかわらずお時間を割いて頂きありがとうございました。

いろいろと貴重なお話やご意見もたくさん伺いました。今回のことを踏まえてこれからの計画や対応を改善していきたいと思います。

ありがとうございました。

—おまけ—

木下) 今年のリボルブ沖縄の新入社員4名のうち3名の皆様方からもお話を伺いたいと思います。

新入社員1) 研修の感想としては、とてもハードでした。僕はプログラミングやっただけでなくて、学ぶ事が多くて、ついていくのに必死だったのですが、仲間がいっぱいいたので、様々な方に支えられて頑張ってきました。勉強は大変だったのですが、みんなのお蔭でやりきれたっていうのが本音ですね。

中尾) 今年は「緊急事態宣言」を受け、新入社員も在宅でのWeb研修に切り替えたため少し淋しそうでしたが、6月から集合研修に戻したため、そこからは皆楽しそうにやっていましたね。

大嶺) 自分が目指す先輩つまりロールモデルを見つけてきましたか？

新入社員1) 現段階では、僕を教えてくれているトレーナーが目指すべき先輩ですね。

大嶺) トレーナーがロールモデルということですね！いいですね。

新入社員2) 研修は4月入ってからすぐ在宅になってしまって、6月から1カ月くらいしか集合でできませんでした。それまでのリモート研修は不便で、さみしい環境でした。分からないときに、同期で教え合うこともできなかったのですが、在宅から集合に変わってからは、隣で教え合ったりとかできるようになりましたし、遊びに行くこともできるようになって、そこからは楽しく研修しています。また、私自身、プログラミングの経験が無い状況だったので、ずっと新しい知識を頭に叩き込まなくてはならず、勉強・勉強って感じでした。

でも、新しいことを学べることには楽しさも感じています。

木下) 東京から沖縄に戻ってきて、これからも沖縄と東京を行き来しながら仕事すると思うのですが、どのような仕事をやれるようになっていきたいですか？

新入社員2) 今は、自分が5年後どのようになっているかとか想像できないくらい、ついていくのに必死です。3つ上のトレーナーの方がいるのですが、すごく頼りになる方で、この人が作業の面では頼りになっています。同時に、3年で私はこの人と同じレベルになれるのだろうかとか不安になることもあります。とりあえず当面は、そのトレーナーを目標にしてがんばりたいと思っています。

木下) 期待していますので、がんばってください。僕らも沖縄市の企業誘致課として、御社が働きやすい環境になるように支援していきたいと思っていますので、いつでも何かあったら言ってくださいね。

新入社員3) 僕もプログラミングの経験がなくて、プログラミングってなんだろうっていう基礎知識から始まって、最初は出来ないことが多くて、リボルブ・シスとリボルブ沖縄の20人の新人の中で下から数えた方が早いくらい何もできなかったんです。でも、他の三人の同期は呑み込みが早かったので、彼らに助けられながら、なんとか食らいついて東京での研修を乗り越えました。

沖縄には8月17日に帰ってきました。目標とする先輩は、プライベートでは、朗らかな雰囲気なのですが、一旦プログラミングを始めると、一気に仕事モードになってカッコいいなと思う方です。これが理想の先輩って感じですね。

コミュニケーションを取るのも上手ですし、場を和ませるような役割にも立ってくれるんですよ。その先輩のように、没頭するだけでなく、切り替えがちゃんとできるようなシステムエンジニアになりたいと思っています。

木下) 社長に先ほど、社員に期待したいことを伺ったら、コミュニケーション力を期待しているとのことでした。そのコミュニケーション力の中でも、チームワークを醸成するために、説明する力を養うこと、困っていることがあったら、困ったとちゃんと言えるチームであってほしいということです。

困ったらいつでも悩みを共有できるチームワークを形成してってください。
本日は貴重なお時間を割いていただき、本当にありがとうございました。

インタビュアー：木下、大嶺、仲程

会社名	：	株式会社 リボルブ沖縄
住所	：	沖縄市中央2丁目28番1号 沖縄市雇用促進等施設 BC コザ2階
電話番号	：	098-923-4401
問い合わせ先	：	企業誘致課（内線：3241）